

石油資源開発株式会社

第 50 回定時株主総会 質疑応答要旨

日時：2020 年 6 月 26 日（金）10:00～

場所：ステーションコンファレンス東京「サピアホール」（サピアタワー 5 階）

当日出席者：44 名 ※議場での報告数

（以下、当日の質疑応答順に記載）

Q1：油価見通しについて。

A1：2020 年度の油価前提は 35 ドル (WTI) と置いていますが、中長期的な予測は難しい状況です。当社中期計画の前提はベースケースを 60 ドルと置いていますが、その変更の要否は、新型コロナウイルス感染症収束後の世界経済の動向等を慎重に見極めながら検討したいと思います。

Q2：低油価継続時の減損損失のリスクについて。

A2：そのような状況（上記 A1）において、現時点で大きな減損損失が発生する見込みはありません。

Q3：配当見通しについて。

A3：長期安定配当の継続を基本方針としており、今期の業績見通しは厳しいものの、配当額は前期と同じ見通しとしています。将来については、その時の情勢、経営環境によって検討しなければならないものの、長期安定配当という基本方針がベースとなります。

Q4：国際石油開発帝石(株)株式（以下、INPEX 株）の株価下落の影響及び引当金の計上について。

A4：INPEX 株の株価が大幅に下落していることは認識しています。貸借対照表上は時価評価をしており、引当金等は計上していません。

Q5：INPEX 株の処分について。

A5：INPEX 株は政策保有株式と位置づけ、その保有継続については毎年取締役会において、定量的、定性的に妥当性を検証しており、現時点で INPEX 株を売却する計画はありません。なお、政策保有株式保有の妥当性の検証結果については、有価証券報告書に記載しています。

Q6：株主優待について。

A6：実施予定はありませんが、ご意見として承ります。

Q7：第50期の記念配当について。

A7：当社は長期安定配当の継続を基本方針としています。また、具体的な配当金額は、当社財務基盤の強化及び持続的成長による企業価値の最大化の観点から、各期の利益状況や今後の資金需要等を総合的に勘案して、決定することとしています。長期安定配当の継続という基本方針をもとに、2019年度には、2013年度から2015年度の水準である年間50円まで戻し、また、2020年度については、現状の油価の下落に加え、新型コロナウイルス感染症の影響が不透明な状況ですが、安定配当の観点から年間50円の配当維持を予定しています。多くの企業が手元流動性の確保を優先している経済状況下でもあり、ご理解いただければと思います。

Q8：会社側出席者全員がSDGsバッジを付ける取組意識を評価し、SDGs活動のさらなる浸透に期待する。(ご意見)

A8：当社はエネルギーを開発、供給する会社であり、特に地球温暖化対策への取組みは避けて通れないと考えています。中期計画や長期ビジョンに則り、再生可能エネルギー事業の推進や環境負荷の少ないLNGの供給等について積極的に取り組んでいるところです。また、関連してガバナンスの強化、改善にも努めています。

以 上